

第34回

こがねいパレット記録集

ダメでいい、
ダメがいい。



「第34回こがねいパレット記録集」

発行にあたって

本市が目指す男女共同参画社会は、「男女が互いにその人権を尊重し、認め合い支え合いながら、それぞれの個性と能力を十分に発揮することができ、また、一人ひとりが輝いて生きることができる社会」です。この目指すべき男女共同参画社会の実現のため、市では第5次男女共同参画行動計画を策定し、計画に基づいて様々な施策を行っております。今年で34回目を迎える「こがねいパレット」もこの計画に基づき、男女共同参画社会の実現に向け、市と市民実行委員が一緒に行う事業です。

今回の実行委員は女性6名、男性2名の合計8名で、約半年間をかけてテーマから企画まで練り上げてきました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令などの影響があり、実行委員会の開催が遅れるなど、いつもとは異なる状況での開催となりましたが、実行委員会で話し合いを重ね、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら開催することができました。

今回は「ダメでいい、ダメがいい。一ありのままを認めれば子どもたちは最高に輝く一」と題し、花まる学習会「いもいも」を主宰され、栄光学園数学科講師、星とおひさま葉山里山の学校顧問の井本陽久先生いもと はるひさを講師にお招きし、ご講演いただきました。

当日参加された方も、会場へ来られなかった方も、ぜひ、ご一読いただき、男女共同参画を考えるきっかけになればと存じます。

次回の「こがねいパレット」は、また新たな企画で開催いたします。市民の皆様、実行委員への積極的なご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、「こがねいパレット」に賛同いただきました13団体の皆様をはじめ、ご協力いただいた多くの関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

令和3年(2021年)3月

小金井市企画財政部企画政策課男女共同参画室

目 次

第34回こがねいパレット当日の様子	1
第34回こがねいパレットプログラム（当日配付）	2
実行委員長のあいさつ	4
講演「ダメでいい、ダメがいい。一ありのままを認めれば子どもたちは最高に輝くー」	5
第34回こがねいパレットに賛同する団体のご紹介	17
アンケート結果	24
実行委員の感想、実行委員会の開催記録	32
第34回こがねいパレットを振り返って	36
こがねいパレット開催の足跡	37

第34回こがねいパレット当日の様子

ポスター

第34回こがねいパレット

ダメでいい、ダメがいい。

ありのまま認めれば
子どもたちは最高の輝く

2020.11.8 sun. 13:30～15:30 (開場 13:00)
定員 36名 ※市内在住・在勤・在学の方・要事前申込
会場 市民会館 講義ホール (小金井市商工会館3階)
参加費 無料
保育・手話通訳 要事前申込
※保育は、1歳以上の未就学児、3名

講師 井本陽久さん
花まる学習会いもいも主宰、新旭学園
教育学科講師、豊とおひさ菜葉山梨山の
学校顧問、子どもたちを輝かせる独自の
教育方法は、新聞、テレビなどでも多数
紹介。子どもたちへの教育をとおして
見えてきた、生きていくうえで本当に
大切なものは何か、みなさんも
それぞれの立場から考えてみてください。

申込み期間 10月1日(木)～10月9日(金)
申込み方法はFAXに、①参加希望者の氏名(ふりがな)(2名まで、空席は除く)②電話番号③メールアドレスまたはFAX番号
④小金井市との関係(在籍・在勤・在学)を記載しお送りください。■手話通訳・要インスをご利用の方はその旨を記載してくださ
い。■保育を希望する方は、お子さんの氏名(ふりがな)と年齢を記載してください。■メールの場合は件名を「こがねいパ
レット申込み」とし、本文に記載してください。■参加の可否は、10月16日(金)までにメールまたはFAXにてご連絡いたします。
■当日のキャンセル待ちはありません。お問い合わせいただいた個人情報は、本事業の参加手続き及び緊急時にのみ使用いたします。

主催：小金井市 企画・運営：第34回こがねいパレット実行委員会
こがねいパレットは、男女がともにいきいきと暮らせる社会をめざして、市民実行委員により、企画・運営しています。
申込み・問合せ先 企画政策課男女共同参画室 TEL 042-387-9853 FAX 042-387-1224
E-mail s010303@koganeishi.jp ※古紙を使用しています

講演の様子①



講演の様子②



本会場



第二会場



プログラム（表）

第34回 こがねいパレット

ダメでいい、 ダメがいい。



本会場：市民会館 萌え木ホール
第二会場：市役所本庁舎 第一会議室

主催 小金井市 企画/運営 第34回こがねいパレット実行委員会

☆こがねいパレットとは

市民と市が一緒に行う男女共同参画推進のための事業で、男女がともにいきいきと暮らせる社会をめざして、市民実行委員により企画・運営しています。（毎年4月頃に、市報・市ホームページ等で新たに実行委員を募集します）

こがねいパレットの名前は、「いろんな色を持つ、いろんな人たちが自分の持つ色を大切に、出会い、交流し、それぞれの色を認めあい、ときには、いくつかの色がまざりあって、新しい色を織りなしながら誰もが楽しく幸せに暮らせる豊かな社会をつくりだそう」との思いを込めて付けられました。

プログラム（裏）

プログラム

1 開会挨拶（午後1時30分～）

2 講演（午後1時40分～）

『ダメでいい、ダメがいい。』
—ありのままを認めれば子どもたちは最高に輝く—

3 質疑応答（午後3時10分～）

4 閉会（午後3時30分）

※ 途中休憩は設けておりません。

<p>いとも はるひさ ■講師■ 井本 陽久さん</p> <p>■プロフィール■</p> <p>花まる学習会いもいも主宰。栄光学園数学科講師。星とおひさま葉山里山の学校顧問。 栄光学園中学高等学校、東京大学工学部卒業。 アエラ、朝日新聞他、新聞雑誌などで多数紹介。長年、生徒と共に児童養護施設で学習ボランティアを続けている他、フィリピンのセブ島でも公立小学校や施設での学習支援活動を行っている。その生き方と活動は、『いま、ここで輝く。』（おおたとしまさ著）やNHK総合『プロフェッショナル仕事の流儀』で詳しく紹介されている。</p>	
--	--

<p>■こがねいパレットに賛同する団体■</p> <p>保育サポーターグループ「アンファン」 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会 小金井市子ども家庭支援センター ゆりかご 公益社団法人 小金井市シルバー人材センター 小金井玉川上水の自然を守る会 子育て支援&多世代交流サロン「みんなの家」 NPO法人 らくビット</p>	<p>（五十音順）</p> <p>聞いてきての会 NPO法人 こがねい子ども遊パーク 小金井市子ども文庫サークル連絡会 こがねい女性ネットワーク NPO法人 ファミリーステーション・SACHI NPO法人 木馬の会 小金井おもちゃライブラリー 企画政策課 男女共同参画室</p>
--	---

実行委員長のあいさつ

実行委員長 山本 紘衣



皆さん、こんにちは。第34回こがねいパレット実行委員長の山本紘衣です。どうぞよろしくお願いいたします。

「こがねいパレット」は、市民と市が共に行う小金井市の男女共同参画推進のための事業です。今年で34回目を迎えます。「こがねいパレット」とは、いろいろな色を持つそれぞれの人が、自分の持つ色を大切に、出会い、交流してほしいという願いで名づけられ、男女が生き生き暮らせる社会を目指して、市民の実行委員がアイデアを出し合い、企画・運営をしております。今年の「こがねいパレット」は、8名の市民実行委員が約半年間かけて何度も話し合いを重ねてまいりました。

本日は、教育分野でご活躍されている井本陽久先生に、これまでの子どもたちへの教育を通して得てきた経験などについてお話しいただきます。井本先生のお話を通し、皆様のそれぞれの立場から一人一人が自分らしく生きていく上で大切なものは何か、自分らしくいられる場所とはについて考えていただければ幸いです。

最後になりましたが、本日、ご出演をお引き受けいただきました井本陽久先生に改めてお礼を申し上げますとともに、ご多忙の中、ご参加いただきました皆様、また、ご協力いただきました各団体の皆様にお礼を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

第34回 こがねいパレット

ダメでいい、ダメがいい。

ありのままを認めれば子どもたちは最高に輝く

講師：いもと はるひさ井本 陽久

講
演

皆さん、こんにちは。まず、このような機会を与えてくれまして、どうもありがとうございます。また、実行委員の皆様、ここまでいろいろやり取りさせていただき、本当に運営も大変だったと思いますが、どうもありがとうございました。今日は、僕自身も楽しみにしてきました。皆さんも喜んで帰っていただけるといいなと思います。

■大好きな栄光生

まず、栄光学園は僕の母校なんです。大学卒業後に栄光に戻って、それからずっと栄光にいたので僕にとって家みたいなところなんですけど、その栄光生がもうすごいかわいいので、まず、その子たちのかわいい自慢をしたいなと思います。

栄光で僕はサッカー部をずっと担当していて、栄光の専任を辞めるまでの27年間やってきました。サッカー部では、「絶対勝つぞー」みたいな気持ちを持っている子はいるけど、チーム一丸となって「絶対勝つぞー」というのは、絶対大人の思いが入っていると思うんですね。もっと純粋に子どもたちはサッカーしたいって思っているし、う



まい子もいて、下手な子もいて、そこを一緒にやれば、何か、下手な子は下手な子なりにちゃんと喜べるようにみんな支え合おうんです。だけど、「絶対勝つ」というのがあると何か変わっちゃうんです。僕は部活に対してそういう思いを持っています。じゃあ、ほっといて弱くなるかといったら、全然そんなことなく、結構強かったですよ。ずっとシードでした。そのサッカー部の子たちは、入学してくると早くサッカーやりたいって気持ちがあって、部活前から、サッカーのミニゲームとかやってるんです。ミニゲームを彼らにやらせると、どうなるかということ、チーム分けをしたいから、服を着ているチームと服を脱いでいるチームみたいな感じになるんですよ。だから、色のついたベストを個人個人に渡すんです。「今日から、これ、君らのものだから使っていいよ」って言ってやると、もらっただけでうれしくなって、すぐグラウンドに行行ってミニゲームをするんですが、みんなベストを着るんですね。もうその時は、意味なんて関係ないんです。自分が着たいから着るんです。





部活の練習中に、僕が足元を見たら、四葉のクローバーがあったんです。しかも2つ。それで、「みんな、ちょっと見てみて」って見せたら、みんな「うわーっ」となって、一生懸命探し始めて部活どころじゃないんですよ。あまりにも一生懸命探すもんだから、四葉のクローバー見つけた人にはジュースあげるよって言ったら、まあ、気合入れて探すんです。気合入れてどうなったかという、こんな集まったんです。(笑) すごいですよね、やる気を持ったときの子もって。それで、ジュースをあげるのも、普通に渡したら面白くないから、一斉に取らせるんです。みんな品定めして、3、2、1で一斉に取りに行くんですけど、結局みんな崩れて、横から行った子がちゃんとゲットするんですね。でもこれ、本当に自分が欲しいものを取りたいっていうんじゃないで、これを楽しんでいるんですね。



この子は教室のベランダで、紐に5円玉をつけて、下の階にいる中1を釣ろうとしているんですよ。釣れるわけないと思っていたら、これで釣れちゃうんです。(笑) それで、この釣っていた子もとにかくユニークで、もう人が考えないことをやろうという子なんです。どういうことをするかというと、期末試験中の朝、虫採りをするんです。彼は、毎

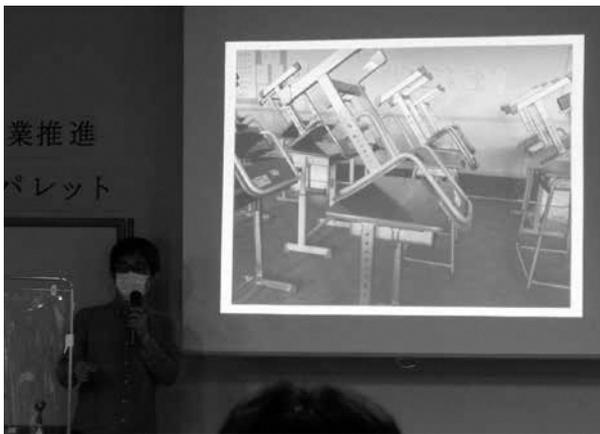
朝虫採り、毎放課後も虫採り、一日ずっと虫採りです。普通、試験中って止めたりするじゃないですか。それが彼には関係ない。自分が自由であるということを知っているんですよ、選択するのは自分の自由だということ。すごく自由なんですね。それで、彼が高校3年生になるとどうなるかという、やっぱり高3でもやっています。その後、彼は農業系の大学へ行って、今も本当に楽しくやっています。



6年前くらいに僕が中学2年生の担当していた時なんですけど、同じ学年の担任が、子どもたちがあまりにも忘れ物をするので、彼らに手帳をつけさせて自己管理できるようになるか試してみようということになったんです。でも、きっちり書く子なんて、ほぼいないと思うんですね。大体どんな感じかというと、『起きる』、『登校』、『授業』、『帰る』だけ。しかも、全部平仮名で書いてます。また、今週の目標『身長を3ミリ伸ばす』、1週間の振返『伸びた』、できなかったこと『なし』って書いてます。どこまでも前向きです。

こんな書き方をしていると、超おっかない先生が、「きちんと書くこと。君は手抜きしちゃいけない人だ」って言って、「明日から毎日提出しなさい」というふうに怒られるわけですね。そうすると、どうしたかという、『前と同じ』って書いてきたんです。(笑) もう全く懲りてないですね。怒られているときは、しゅんとするんですけど、もう次の日には忘れるっていう感じです。皆さん、経験がありますよね。

ある日、掃除が終わった後の教室へ行ったんです。机の上に椅子を置いて掃除が終わるんですけど、でも、これじゃあ普通でつまらないってなって、こんな感じにしちゃうんです。



このほうが面倒くさいし時間がかかるんですよ、圧倒的に。要は、面倒くさがりなのではなくて、ルーティンが嫌なんです。でも、ルーティンじゃなかったら、違うことだったら、どんなに時間がかかってでもやるんです。

■自分のやり方でやる、自分の考え方で考える

この子たちは、何かダメダメな感じなんだけど、でも何か笑っちゃうし、何か魅力的ですよ。皆さんも、何かこうダメな感じをかわいいなあとか、何か魅力的だなんて感じる心を持っていると思うんですけど、ただ、この子が自分の子だったら、ちょっとイラっとするじゃないですか。でも僕が思うのは、子育てを楽しめるかどうか、楽しくやれるかどうかって、自分の子を見たときに、やっぱり魅力的、かわいいねって思えるかどうか、そこだと思っただけなんです。これは教員も同じだと思います。

こういう僕も、小さい頃は本当ひどくて、学校や近所では誰も知らない人がいない感じの問題児です。もうとにかく、何かダメって言われたことはやりたくなくなっちゃうんです。それと、僕は、バレないとやらないんです。意味がないから。(笑) 今、振り返ると当時の僕は、サービス精神で何か盛り上げたかったんです。そして、盛り上げるのに一番いいのは、やっちゃいけないことをすることです。それを毎日してましたから周りが大変でした。なので、僕が外で友達と遊んでいると、その友達のお母さんがふっと来て、「ほら、陽ちゃんと遊んじゃダメって言ったでしょ」って言って連れて帰ることがありましたね。僕も子どもながらに、何かいけないことなんだよなと思いつつ、バイバイってやっていたんですけど、本当に大変な子ども

でもでした。

でも、今の自分があるのは、そういう子だったということと、あと、そういう自分を母が全然怒らずに、むしろ、心から愛してくれているのを疑いなく感じていたからです。母との日課は、抗議の電話がしょっちゅう掛かってくるんで、電話があると「行くわよ」って言って、その子の家に、「ごめんなさい」って謝りに行っていました。でも、行きも帰りも怒られないんですね。それがすごく思い出に残っていますが、本当にそれがよかったです。ああって思っています。

学校にはいろんな子がいるじゃないですか、言うことを聞かない子とか。そこで、多分、イライラする先生がほとんどだと思うんですよ。でも、僕はイライラしないんです。むしろ、子どもたちと楽しくやれるというのがよかったです。と思います。

皆さんからすると、子どものこのダメダメな感じが、何にもつながらないように感じていると思いますが、授業につながっているんですよ。

授業で、最初に「上下左右前後どこから見ても、田んぼの田の図形を考えること」と問題を出します。僕は問題を出すだけです。そうしたら、彼らは消しゴムを切ったり、一人でやったり、大勢でやったり、黒板を使ったり、全部自由に思うように考える。この子たちのこの感じて、さっきのダメダメな感じと、共通していると思うんですよ。それは何かといったら、キラキラしてるじゃないですか。生き生きしているんですよ。ではどうすると子どもたちは生き生きするのか。これはもう簡単です。はっきりしています。それは自分のやり方でやる、自分の考え方で考えているときです。一言でいうと、自分で決めるということですね。自分で決めているときというのは、もう生き生きしているんですよ。それがうまくいこうがうまくいかなかったらいいですね。

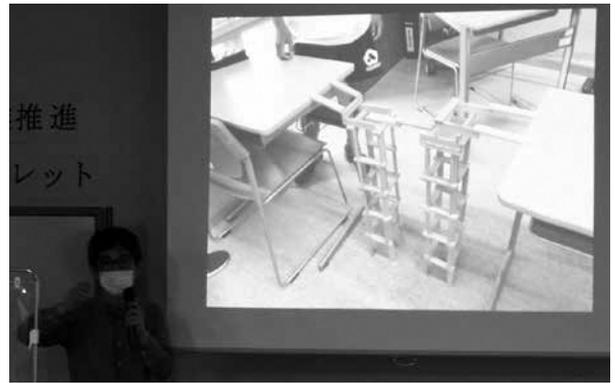
特に、ふざけ、いたずら、ずる、脱線、これって最も自分の考え方で考えている瞬間ですね。子どもたちは、やっぱり普通がこうだってなったら、ちょっと外れたところを考えたくなるんですよ。普通ではつまらないんです。だから、ちょっと違う方向へ行こうって。こういうところに、実は本当に宝の山が隠れているんですよ。

僕の授業は、自分の解答をみんなに示したり一

切しないんです。彼らから解答が集まるようになって、その正答と誤答を彼らにシェアして、それをまた教材にするというふうにしているんです。もう彼らの考え方がすごくて、これは宝ですね。特に誤答は宝です。また、脱線から大発見もたくさんあります。そのおかげでものすごい深い問題になったってこともいくらでもありますね。でも、どうしても先生としては脱線を許しにくいと思うんですが、実はここが重要なんです。それはなぜかといったら、自分で考えていることだからです。だから、そこについてはどこまでも時間をかけて頑張れるんですね。

もう一つ、授業例を紹介します。これは『カブラ』っていうおもちゃの板なんですけど、「机一個分の幅を空けて、その幅にアーチをかけよう」という問題です。僕からはこうだったらいいよとか一切言いません。彼らに自由にやらせてもらうので、みんな生き生きしながらやっています。自分のやり方でやることに意味があるんですね。失敗したって、全然楽しそうにやっています。要は、彼らが自由にやり方を考えるんです。自分たちで決めてやっているときって、もうどこまでも、どんどんいろんなアイデアが出てくるんですね。例えば、この子たちは、あいつらは単にアーチをかけているだけだけど、俺たちはきれいなアーチをかけたい。失敗してもそこから学ばばいいんです。むしろ、それで学べることもあるんだったら、いいわけですね。それで、失敗から学んだ彼らがどうなったかという、また同じことをします。(笑) まあ、ちょっと工夫したり、何かしているんですけど、同じように失敗するんです。

これはいわゆる学びじゃないって言われそうだけど、僕からしたら、これこそ学びです。こうやって自分でいろんなことを考える、自分のやり方でやっていってなると、どうなっていくかという、ふざけ、いざずら、ずる、脱線が必ず出てきます。仮にそれがしょぼくてもいいんです。しょぼいのはほっとけば。すると、絶対これじゃ満足できな



くなる。もっとももっとなって、彼らが次にどうなったかという、もっときれいなものを作るわけですよ。つまり、彼らがこうやって生き生きしているとき、何をしているかといったら、試行錯誤しているんですよ。ああでもないこうでもない。

この試行錯誤って、2つのことがあれば勝手に回るんです。僕が授業でデザインするのは2つです。一つは、『失敗する』ということ。なぜかといったら、失敗することがなかったら、試行錯誤は起こらないんです。人って、うまくいっている間は絶対自分の考え方を振り返らないんですね。うまくいくと思ったのに失敗したら、「えっ、何で失敗したの」ってなりますよね。そうすると、自分がうまくいくと思ったやり方を振り返るわけですね。なので、失敗するという事は、絶対必要なんです。失敗がないところに学びはありません。それは断言できます。

ただ、もう一つ絶対に必要なことがあるんです。それは何かというと、『自分のやり方でやる』、『自分の考え方で考える』ということ。人から教えられたやり方で失敗しても、「えっ、何で？」ってならないんです。自分が考えて、こうだったらうまくいくんじゃないかと思ってやって失敗するから、「何で？」ってなるんですよ。だからこそ、自分で考えて絶対うまくいくと思ったのに失敗するということが重要なんです。自分のやり方でやる。そして、失敗するということですね。一番いいのは、「絶対合っていると思っていたことが間違っていた」これが最高ですね。もう最高の試行錯誤がそこで起こるわけです。

論理的に考えることは強力な武器です。なぜならそのことで実際にやってみなくても、こうなるはずと予測できるようになるからです。そして根拠をもった説明なので、その『正しさ』を他の人に納得させることができます。ですから論理は強

力な武器なのですが、同時にだからこそ危ういのです。なぜなら論理というのは、どんな論理でも、間違っているかもしれない、穴があるかもしれないという可能性があるからです。今、科学でこれが正しいと言われていることなんか全部そうです。あれも、科学的『正しさ』は、もしかしたら穴があるかもしれないということを許容したうえで正しいとしているだけなんですね。なので、大事なことで何かって言ったら、論理的に説明ができて、「いや、無意識に思い込んでいるところに穴があるかもしれない、違うんじゃない？」って疑うことですね。

本来、子どもは疑うのが得意なはずですね。「大人がこう言っても、素直に聞かない」とか。僕が覚えているのは、小学校1、2年生のときに、2種類の種を2つとも半分に分けてくっつけたら、どんなものが育つだろうって思ったんです。例えばジャガイモと何か別の種類のものをくっつけてみるとか。先生にはそれは無理だよって言われましたけど、「いや、俺が世界で初めてそれができるかもしれない」みたいな。それはそれでいいんです。浅はかでもいいんです。大事なものは疑うということです。

論理に関しては、『自分の無意識の根拠』を意識化する』ということが大事になります。もうそれに尽きます。何か証明問題があっても、それができるかできないかなんかおまけです。受験はできることが評価されますが、そんなのは役に立たないですね。それよりも、証明の中の根拠は何か。間違ったときに無意識に根拠にしていることがないかを考えるのです。根拠を意識化すれば、それが正しいかどうかを考えることができるようになります。



皆さん、水平線ってありますね。水平線って、何で見えますか？ 子どもたちはどう答えるかと思ったら、地球が丸いからと言うんですよ。皆さんも



そう思った人がほとんどだったと思いますが、ここで問題です。地球の表面がどこまでも続く真っ平らだったら、水平線は見えますかということです。

これをやると、何が起るかということ、子どもたちは疑い合いですね。誰かが意見を言います、そしたら、「いやでも、もしかしたら、こういうこともあるかもしれない」ともうめっちゃめっちゃ議論が白熱しますね。それで、子どもたちが、どんな回答をするかっていうと、まずよくあるのが、「ここが空、ここが海、そしてその間に境界がないという仮説が想像できないからあるはず」とか、「視力が超よかったら、どこまでも遠くでも見えちゃうから、線としては認識しない」とか、面白くないですが、これ。

いきなりは出ないんですよ。みんながやっているうちにその意見に乗かって、疑って疑ってやっているうちに出てくるんです。こういう子もいましたね。「光が届くのにタイムラグがある。例えば、何光年も離れている星の光は届くまでに時間がかかるから、今、見ている星は昔の星で、それくらい離れている先には地球はないから、水平線も何もない。」この回答はすごくないですか。本来の出した問題を超越するわけです。僕がこの問題を出すときに、そんなことを予想できないわけです。でも、子どもたちはそれを超えていくんですね。だからこそ、彼らが自由に考えて答える。この一人一人が考えていることというのがめっちゃめっちゃ貴重なんです。それが正解かどうかなんてどうでもいいんです。

■『できる』『できない』で評価しない

子どもたちが、この授業中の生き生きとか、躍動って何で生まれると思いますか？ だって、学校の先

ていて、その外の評価を得ることができちゃっていると、どんどん追い込まれていくんです。

僕が若い頃、中学1年生の担任になったときに、一人、ものすごくいっしょにしている子がいて、周りにもすごく優しいし、掃除とかも、誰か困っていると、「あ、じゃあ、僕がやるよ」ってやってくれるんです。先生に対してもものすごく手伝ってくれて、先生の中でも、本当にあんな子もいるんだねって言っていて、友達からもすごく信頼されていました。

ただ、ある日、お母さんから電話があって、「息子、今日来ていますか」って、せっぱ詰まった声で言うんですね。それで、「朝いましたけど」って言うと、「いや、今、いますか」って聞くんです。「どうしてですか」って聞くと、「机の中から遺書が出てきた」って言うんですよ。

とにかく彼は、ずっと周りに気遣っていたんですね。その後、僕も全くそのことを知らないふりして、定期的に、ちょっと会おうぜとか言って、彼に話を聞きました。そしたら、2年後の中学3年生のときに、初めて自分からその当時のことを触れましたね。何て言ったかという、「中1のときは、何か、みんなっていう中に自分という小っちゃな泡がふわふわ漂っているような感じだった」と言っていましたね。要するに彼は外の評価軸だけで生きていて、自分って何か分かんなくなっただけですね。彼ね、遺書の中にこういうことも書いたんですね。「棺桶はもう段ボールでいいです」って。そこまで気遣うんですよ。本当に多かれ少なかれ、外の評価軸で生きている限り、まあ、苦しいことは避けられないと思うんだけど、本当に今の子どもの生きる環境ってどうなのかなって思うんですね。本当に自分のままでいられるというようなことが、どんだけあるのかということですね。



我々が子どもの頃は、やっぱり勉強のできない子もいましたよ。だけど、今と違うのは、義務教育までの子もたくさんいたし、大学へ入るほうが少なかったから、別に、何かができるということがそこまで大事じゃなかったですね。あと、決定的に違うのは、子どもの環境ですね。自分で自由に大人のいないところで、自分の思うようにやるという時間も場所もないということです。

皆さん、どうですかね。学校が終わったら、遅くまで外で遊んでいなかったですか？ そのとき、親とか、いないですよ。だけど、今、どういう状況かという、学校が終わったら、学童とか、スポーツクラブとか、必ずどっか引き受けてくれるところがあるわけです。そこに預けたら安心ですよ。でも、そうすると、子どもは自分の自由にはできないんですね。僕、去年まで福島の飯舘村というところで定期的に教えていたんですけど、自然の多いそこでも学校が終わってから外で遊んでないそうです。必ずどっかで預かってもらっているんですね。だから、常に誰かと一緒にいる状態なんですよ。

この子どもたちが本当に必要なのは、自分のままでいられる安心感ですね。これが今の子にどれだけあるかということですね。だから、『できる』『できない』というのは、もちろん否定はしないけど、今の子どもたちのどこを見るかって言ったら、やっぱり生き生きしているかです。安心して自分でいられる場所があるかということがすごく大事なことです。彼らは、自分のままでいられる、その安心感さえあれば、勝手に伸びていくんですよ。でも、伸びていくといっても、どこへ伸びていくか分かんないんですよ。どうなるか分かんないです。でも、必ず伸びていく、自分の道を進んでいくんですね。大人である我々ができることは、それを信じるということだと思います。

下手すると、何か赤い花を咲かせる種に、花が咲くまで一生懸命青、青、青と言って、赤い花を咲かせたら、「違う！」って言っているようなことを今、教育でしちゃっているかもしれないということですね。学校の現場で見えてきはっきり言えることは、子どもたちは一人一人違うということですね。一人一人違うのに、「みんなが同じことをできるようにしましょう」とか、「こういう方法

でやりましょう」「毎日漢字を書きましょう」とか。方法も一緒、ゴールも一緒。それって、もう不自然なんで、あり得ないんです。

一人一人みんな違って、みんな魅力的なんですよ。さっきのダメダメもそうだけど、自分が思うようにやってキラキラしている時って、もう最高なんですよ。だから、やっぱり立ち戻るところって何かと言ったら、一人一人を見るということですね。一人一人を大切に、それを本当にやるということです。今、子どもたちの学びに、ひいては人生に『キラキラ』はあるか。もうその一点でいいと思うんです。そこ一点でいいですね。

大学へ行かないかもしれないし、目指してて落ちるかもしれないし、でも、そんなの関係ないですね。自分で自分のことは自分で決めるということをとくさんしてきた子、自分のやり方でやるという経験の総量がとくさんある子は、どういう人生だから幸せとか、どうだと不幸なのか、そんなの軽く超えてくるんですよ。

■ありのままを認める



今、僕は『いもいも』という教室を、5年やっています。この『いもいも』で大切にしていることというのはとてもシンプルです。その子のいいところを引き出そうじゃなくて、『いいところ』というのは、こちらからの価値観から見ているので、そうじゃなくて、その子の持っているものをそのまま価値として認めるということですね。その子のまを面白がるということです。

これはいわゆる『教育』と何が違うかということ、『教育』って、目的が子ども側にあるわけです。こういうことができるようになるとか、こういう大人に育つとか、目的は子ども側に置いているわけ

です。でも、僕らはそうじゃなくて、目的は大人側にあります。つまり、どの子を見ても、もうその子のありのままをかわいって心から思えるようになるとうことです。当然、イライラもしちゃいます。もう、こう何か怒りたくもなるけど、怒るなとか、そういうことじゃなくて、どの子を見ても、いいな、かわいいな、愛しいなと思えるようになるうってことですね。そこの意欲を持ち続けるということ、本当それだけですね。まあ、一言で言うと、『ありのままを認める』ということだと思います。

■子育ては、子どものためじゃない

今僕が、特にお母さんたちは本当大変だなと思うのは、インターネットとか、SNSがもうみんな使えるようになって、もう様々な情報が来るじゃないですか。英語でとくさん宿題が出たらしいよって、ママ友から情報が来たら、うちの子はやるのかしらって、気になってしまう。要は、みんな一律に伝わるから、どのお母さんも、うちの子はちゃんとやっているかしらみたいになっちゃうと思うんですよ。でもそれは、いい子育てをしたいって思っているからだと思います。

でも僕は、子育てをしたことがないのにこんな偉そうなことを言ってるんだけど、子育てって、子どものためじゃないと思うんですよ。結局。その子と縁あって出会ったわけじゃないですか。その子育てを通して自分が変わっていくんだと思うんですよ。僕の子どもたちとの関係というのは、まさにそうでしたね。僕がこの子に何かしてやろうって思っても、それって大体うまくいかないです。そうなるとコントロールしたくなるし、そうすると、必ず何か不自然になるんですね。でも、恐らく子育ての中でとくさん失敗しちゃったとか、思いどおりいかなかったという中で、でも、その縁を通して、皆さん一人一人いろんなものをもらったと思うんですね。つまり、自分が変わっていったと思うんですよ。だから、何か子どもに対して責任があるって思って子育てしちゃうと、結構きついと思うんですね。しかも、うまくいかない。むしろうまくいくと怖いんですよ。

小学校の頃はまだ言うことを聞くとするんですけど、中高生になると反抗期になって、お母さん

はいろいろ言いたいんだけど、「もういい、あなたのこと、考えたくない」ってなってくれるんですよ。だから、反抗期って、子離れのためになるんですね。でも、まれに本当不幸にもコントロールがうまくできちゃう人もいますよ。その人が悪いんじゃないんですよ。そうすると、子どもって家ではいい子にして、外で何かやってしまうっていうことが多いんですね。だから、子どもをよく育てようとか、いい子育てをしようというのは、いい子育てって何だという問い自体が変だと思うんです。そうじゃなくて、何でこの子と出会ったんだろうということですね。

出会いの縁って、例えば親子だったら、何で自分のところに生まれてきたかといったら、自分にとってこの子に会う必要があったからだと思うんですね。僕もこの子たちと縁があるということは、この子たちと会う必要があったからなんです。それだけでいいと思うんです。それで、必ず変わっていく部分ってあると思うんですね。

■その子のままでダメなはずがない



『いもいも』では、表現コミュニケーションっていうのをやっていますが、これは、その子の表現がうまくなるとか、コミュニケーションがうまくなるっていうことは目的としていません。何かというと、どの人の表現を見ても、そこにいいなって感じるということですね。実は、この感性、皆さん持っているんです。例えばね、口下手ですごく照れ屋で何か言ってもうまく分かんないという人を見てもね。何かそこがいいなあって感じるということがあるじゃないですか。それは何かといったら、その人をいいと思っているから、その人のそういうところもいいなって思うということです。

よく言われるのが、「ありのままを認めると、子どもって勝手になるんじゃないですか。それで、それも許すんですか？」って。許す許さないの問題じゃないですよ。危ないことをしたら止めますし、でも、ジャッジしないということです。むしろ、勝手になるどころか、大人からありのままを認められると、今度はその子どもが自分の友達を認めるようになるんですね。特に、『いもいも』はいろんな子が入ってきます。本当にいろんな問題を抱えた子も入ってきますけど、その子こそ自分たちから受け入れにいきます。もうそこは見事です。もう本当感動しますね。不登校の子も全然いますけど、例外なく、一度教室に入ったらみんな次から自分の足で来ます。僕は学校にいたので、一度学校に来れなくなった子が、次、教室に入るようになるのがどれだけ大変かということを身にしみて分かっているのびっくりで、ひきこもりで親とも顔を合わせなかった子が、少しずつ『いもいも』の教室に近づけるところまで来て、教室に入ったら、もう平気で来れるようになっています。

つまり、何かといったら、不登校の子が問題だから変わんなきゃいけないじゃないんですよ。ジャッジされるという怖さがあるし、特に不登校の子というのはすごく繊細な子、本質的なことをごまかせない子が多いので、もろに受けちゃうんですよ。だから、ある意味、世の中や学校のおかしなところをいち早く感じて教えてくれるのがそういう子たちだと思うんだけど、いわゆる自分のままでいられるという安心感があれば、もう普通に自分で行われるわけです。だから、変わる必要はないんですね。変わるのは周り。どうしてもジャッジしちゃうっていう癖がある周りですね。

■子どもを変えるのではなく、子どもを見る大人の心を変える

子どもの学び場に大切なのは、人と環境です。何をやるかなんか、どうでもいいんですよ。それはもう彼らが自然に自分たちでいろんなものを見つけてくるので。それよりも、まず、愛のある人、その人の前で自分が安心していられる、そういう大人が必要だと思います。

そして、やっぱり自然なんですよ。僕は去年から逗子の葉山の里山で、里山学校というのをやっ

ていて遊びを担当しているんですけど、子どもたちはやっぱり教室と違うんですよ。教室って、教室自体には魅力ないじゃないですか。教室に入ったら「わー」みたいなのはないですよ。だから、学びのモチベーションを持たすのに、こっちが見えないコントロールをするわけです。だから、不自然なんです。だけど、自然って全て同じものが一つとしてないですよ。しかも、ジャッジしないわけです。その中にぽんと降り立つと、もう体の全身の細胞全てで沸き立つみたいな。そういうのを見て、やっぱり自然という環境は圧倒的に大事なんだなって思いました。考えてみたら、人間って森や草原で生きていた動物だから、言ってみれば、現代人は都市という動物園を作って、自らその檻に入って過ごしているようなもんなんですよ。それが自然の中に身を置くとあっという間に『元に戻る』。そして、そう思って『いもいも』では自然の中でひたすら遊ぶ『森の教室』を始めました。これを平日昼にやってます。学校の先生に怒られちゃいそうなんですけど。

ここに来ているのは、ほぼ不登校の子です。でも、それが全然わかんないくらいに元気に仲間と一緒に遊んでます。子どもってすぐ変わるんですよ。ある子のお母さんは、それを泣きながら見てて、その子は小学校の高学年なんですけど、仲間と一緒に遊ぶ姿を初めて見たって言ってました。だから、もう子どもたちが変わる必要ないんです。本当にちょっとしたことなんです。

要するに、本当に僕は大了たこと言っていないんですけど、その子のままでダメなはずがないということですね。なぜなら、その子はそこにいるんだから、ジャッジする意味がないんです。そのまま見ればいいんです。

例えば、皆さんが料理をするときに、「このからし、超辛いな、何だよ、もっと甘くなれ」って思わないじゃないですか。ジャッジしないんですよ。例えば豆腐を見てね、「あのさ、もうちょっと硬くなっていいんじゃない」とか、思わないですよ。だから、その見方をすればいいんですよ。だけど、どうしてもできない。ジャッジしちゃうんです。何でジャッジしちゃうかという、おそらく、みんな人間の根本、根底のどこかに何かができないと価値がないとか、何かをしなければ価値がないという、どっかそういう不安や恐れっ



ていうのを持っているから、どうしても優劣をつけたがるんですよ。そこで優劣つけて、自分が優で安心したいんですね。そこがジャッジする根本、根底だと思うんです。

不安を感じても全然いいと思うんですよ。でも、その不安を見つめること、そして絶対に不安では動かないということですね。それだけで全然変わると思うんです。つまり、子どもを変えようということではなくて、子どもを見る大人の心を変えようということです。もっと言うと、これは、自分の今後の課題でもあるんですけど、僕は、どの子を見ても最高と思えるようになりたいって、20代の後半から、ずっとその自分と向き合って闘ってきました。だから今は子どもを許せるんですよ。許せるというか、むしろダメダメがいいねって思うんだけど、大人に対してはやっぱりどうしても批判的になってジャッジしちゃうりするんですね。

そして、実際大人って、本当はありのままを認められるということが必要な人ってたくさんいると思うんですよ。だけど、もう社会人になった途端に、その機会って失いますよね。「だって、大人なんだから」っていうことですね。でも、実は、本当は子どもよりも、もっと大人のほうがそのありのままにいられる場所が必要なんじゃないかなって思っています。

<質疑応答>

【質問者1】 私は、子どもを放任で育てたいという思いがあるんですけど、夫がト昭和の男で、なかなかそういう考えに至らず、ちょっと困っているんですけど、その夫を育てるみたいなのところは何かありませんか。

【井本先生】 そうですね。僕は独身なので、夫婦関係って一番苦手なところなんですけど、ただ、その根本的なところは変わらないと思うんですね。だから、例えば、僕の場合、栄光学園という中にもたくさんの職員がいるし、『いもいも』にもいろんな人がいます。それを、変えようとしても変わらないと思うんですね。多分変えようとする、イライラしてコントロールの仕合いみたいになってしまう。それよりも、相手を変えようとするのではなく、夫は置いといて、やっぱり子どもに寄り添うということだと思います。

要するに、お母さんにとって、この子育てがどうかってということだと思うので、そっちに目がいったらちやうとまた違っちゃうかなって思うんですね。何もかもが完璧じゃないとまずいとか、子育ての正解とか、子育てってそういうもんじゃないと思うんですね。子育てって、それを通して親がどう変わるかということだと思います。

【質問者2】 今の子どもたちの学びに、人生に『キラキラ』はあるかというふうにおっしゃられたと思うのですが、やっぱり大人もキラキラしてないと、子どもにそういうのを伝えられないかなと思います。何か先生を見ていると、すごいキラキラしているように見えるので、先生が普段から心がけている、キラキラできるようなコツなどはありますでしょうか。

【井本先生】 そうですね。僕は思うようにやっ



ているということだと思うんですけど。僕は、やりたいことをやっているわけじゃないんですよ。何か、あまり自分でやりたいものがないし、特に30代後半になって、自分の『したい』はやらないって決めたので、人生を信じて流れに任せたほうがいいって思うふうになります。

あと、僕のベースにあるのは、みんなができることができないんですよ。例えば、年に何回かは、駅かなんかで、「かばん開いていますよ」って他人から声を掛けられるし、ちゃんとしたことができないんです。だけど、それをちゃんとしようとあんまり思わない。まあ、これでいいやみたいな感じですね。開き直っているわけじゃないけど。

小学生の頃の僕は、みんなに迷惑をかけて大変な子どもだったんです。でも、母親も、周りの人も全然、怒らなかつたんです。今も、職員室の自分の席の近くのおばちゃん先生から毎日怒られていますけど、まあ、そんなに僕のことを気にしているんだなって、ありがたうって。そう思えちゃうのは、小さい頃からなんです。だから、変だねとか言われたりすると、すごくうれしくなってしまう。まあ、やっぱり思うようにやっていって開き直ることが大事かもしれないですね。

あとは、やっぱりコミュニティをつくることだと思いますね。判断は絶対一人でしないほうがいいと思います。どうしても不安から判断しちゃうようになるから。何かダメ親でいいじゃんみたいな、そういうような感じでいられるコミュニティとかに入るのはいいと思いますね。



【質問者3】 私自身、学習塾で指導をされていて、指示待ちの子どもたちが非常に多くなっているという点をすごく実感しているところです。それこそ外の評価で生きている子たちなんだというのを実感するのですが、そういった子たちの、外の評価で生きている殻を破るような、このお手伝いみたいなものがないかなというふうに今も思案しています。そういったときに何かこういうことをやってきたみたいなものがあれば教えていただきたいなと思います。

【井本先生】 僕の場合は、例えば授業というフィールドでは、まず最初に、何かこの先生、先生っぽくないじゃないっていうふうに、子どもたちのほうが驚くぐらい普通は先生が認めないことを認めるという感じだと思います。

あと、とにかく許可を求めてきたりしたら、この教室は俺の教室じゃなくて、みんなの教室なんだから好きにすればいいじゃんっていうことを繰り返しますね。何か特効薬というよりも、一つ一つ辛抱しながら認めていくということが大事だと思います。

あと、安心感だと思います。自分のやり方でいいんだっていうところですね。特に今まで怒られてきている子は、ジャッジされなくても、相手の顔がちょっとしかめっ面になった瞬間に、「あーあ、やっぱダメなんだ」って全身の細胞で感じるんですね。だから、本当に自分がそれをいいねって思える自分になるということが根本だと思いますね。

【質問者4】 私には中2の子どもがいるんですけど、オンラインゲームにすごくはまっていて、あるとき気がついたら、インターネットでゲームの相手と話していて、相手が社会人で、自分のことは大学生だって言っていて、それで、何かゲームのことをいろいろ教えていました。度が過ぎたら怖くなって思うので、どこまでオーケーを出せばいいのかなというのがちょっと心配です。

【井本先生】 2つあったと思うんですけど、一つは、外の知らない大人と繋がること。これは運になっちゃいますけど、だから、どうしたほうがいいとかっていうことよりも、むしろ、そこは親の判断だと思うんですね。いろいろ広がれば、それがきっかけになることもあり得るし、でも、広がれば広げるほど危ないこともあるしということ

ですね。だから、そこは、何が正解というよりも、子どもを育てているという、親がどう判断するかということだと思います。

あと、ゲームについてなんですけど、この悩みは多いと思います。ゲームばかりやって、勉強しないことはどうでもいいと思うんです。それよりも、本当にゲームから離れられなくなってしまうたらそれは問題です。

前にこういうことがありました。サッカー一部の子3人とサッカー場の横でしゃべっているときに、「何が好きなの？」って聞いたら、1人の子は、生物が大好きで、昔から図鑑を見たり、いろんなフィールドワークも大好きだと。もう1人は歴史が大好きで、歴史書もたくさん読むし、全然飽きない子。もう1人はゲームが大好きと言ったんですね。「じゃあ、もし今、魔法が使えて、君たちにその『好き』を好きじゃなくさせることができるとしたら、その魔法をかけてもらいたい？」って聞いたら、生物が好きな子と歴史が好きな子は、「絶対嫌だ」って言ったんですけど、ゲームが好きな子は、「してほしいかも」って言ってましたね。

つまり、ゲームでやっぱり危ないのは、依存になるということですね。そこはどれぐらいやらせたら依存になるとか、そういうのってないんですよ。結局、その依存って何かといたら、ゲームでも何でもそうなんだけど、自分の心が満たされているかどうかなんです。つまり、自分に自信があるとか、自分はこれでいいって思っているかどうかっていうことです。だから、依存になるとゲームが楽しいじゃなくて、やっていないと不安になるんですよ。だから、何かしようとしてもうまくいかないと思うんですね。だから、その子が満たされているのかなっていう視点が大事だと思います。



こがねいパレットに賛同する団体（展示）のご紹介

（五十音順：一部除く）

保育サポーターグループ 「アンファン」

【代表者】 すぎい あきこ
【TEL】 042-313-9344
【E-mail】 akiko.sugii@gmail.com

保育士有資格者が運営する保育サービスのサポーターグループです。

「子育てを応援し、子供の成長を見守る“もうひとりの家族”」が活動のコンセプトです。

日々子育てに奮闘するお母さん方に、たまには息抜き、リフレッシュするひと時、心を整える時間を与え、またお子さんの成長の下支えが出来たらと願って活動しています。学校行事や保護者会、ママ友とのお出掛けなどグループでの利用も可能です。おもに小金井市行政や公民館事業からの保育要請にお応えし、市内保育園や学童保育、ファミリーサポートなどでの経験を活かし、地元ならではの保育を目指しています。保育士をはじめ幼稚園や小学校教員免許を持ったメンバーを中心に構成されています。アンテナオフィスは桜町いこいの家で開催されるサロン「みんなの家」になります。開催は原則毎週木曜日ですので、一度遊びにいらしてみませんか。ぜひ『アンファン』へのご相談をお待ちしております。

随時、メンバースタッフを募集しています。

聞いてきいての会

【代表者】 千葉 睦
【TEL】 042-301-8186
【FAX】 042-301-8186
【E-mail】 mutsunet@softbank.com

心に届く朗読を目指して立ち上げた「聞いてきいての会」も12年目。

毎月第1土曜日は、元NHK日本語センター専門委員 風見雅章先生を講師に、ユーモアある熱いご指導を頂いています。毎月第3土曜日は、発声練習やコミュニケーション練習「私の扉」を会員相互で続けています。

<朗読会>

- ・朗読の楽しさを伝えたい新春朗読会 出演：当会会員 入場無料
2021年2月20日（土）2時～4時 小金井宮地楽器小ホール
- ・コミュニケーションを高める朗読（市民がつくる自主講座 全2回）講師：風見雅章 参加無料
第1回 2021年2月27日（土）2時～4時 貫井北センター
第2回 2021年3月6日（土）2時～4時 貫井北センター

※ 令和3年2月1日現在の予定を掲載しています。

小金井子育て・子育て支援
ネットワーク協議会

【代表者】水津 由紀
【TEL】080-4836-2865（石井）
【E-mail】koganei.k.k.netwk@gmail.com

ホームページ https://nobinovino.net/kk_netwk/
「のびのびーの！」<https://nobinovino.net/>（小金井子育て・子育て支援サイト）
「えにえに」<https://anyany.nobinovino.net/>（小金井子どもの居場所サイト）
FacebookとTwitterもやっています。

2011年8月に設立し、子育て支援や子どもに関わる活動をしているサークルや市民団体、NPO等がゆるやかにつながり、行政と連携して「地域で子どもを育てよう」と活動しています。加入団体92団体（2021年1月現在）

小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」の運営をはじめ、妊娠期から子育て中の保護者のための講座や交流会、「子育てメッセこがねい」の開催、キッズカーニバルKOGANEIへの参加、市長への提言などを行っています。

今年度は子どもの居場所検索サイト「えにえに」を新たに開設しました。子ども達が色々な場所について知り、子どもの権利である「生き、育ち、守られ、参加することが出来る」居場所と出会い、仲間や支援者とつながれることを願っています。また、子ども達にとって必要な情報を届けるためにも子どもの居場所に係わる活動をなされている方からの情報提供もお待ちしております。

NPO 法人
こがねい子ども遊パーク

【代表者】邦永 洋子
【TEL】042-201-5453
【FAX】042-201-5453
【E-mail】playpark@koganei-yu.net

ホームページ <https://www.koganei-yu.net/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/koganeikodomoyupark>
ブログ <https://ameblo.jp/koganei-yu>

子ども達には遊びの時間、仲間、場所が必要です。子どもの自主性を育み、自然の中で自由な遊びをさせたいと冒険遊び場（プレーパーク）を運営しています。直接的に五感に訴えるような体験の場所を作りたいと、泥んこ、虫取り、木登り、秘密基地、野外調理など子どもがやってみたいことを実現できるように場づくりをしています。また、子どもの町づくり、職業体験のイベント「こどものまち・ミニこがねい」も実施しています。子どもの企画で成りたつこの遊びのなかでは、子どもの力を信じて大人と子ども共に育つパートナーとしての大人の役割を感じます。そのほか野外保育、農作業や手仕事などの自然体験事業を通じて子どもの健やかな成長と文化の継承をしていきたいと考えています。

小金井市子ども家庭支援センター
ゆりかご

【代表者】松藤 早由美
【TEL】042-321-3141
【FAX】042-321-3190
【E-mail】mail@k-yurikago.org

ホームページ <http://k-yurikago.org/>

小金井市子ども家庭支援センターゆりかごは、0歳～就学前のお子さんとお母さん、お父さんがおもちゃや絵本で自由に遊んだり、おしゃべりできるひろばです。

地域のボランティアさんも大勢来て、手遊びやパネルシアター・コンサート・ひろばでお子さんたちと遊んでくださっています。

ゆりかごスタッフも仲間に加えていただき、子育てのことを一緒に喜んだり、時には悩んだり、考えたりしたいと思っています。皆さんが安心して自分らしくいられる空間にしていきたいと考えていますので、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

勿論、お孫さんを連れのおじいちゃん、おばあちゃん、これからお父さんお母さんになられるプレパパ、プレママも大歓迎です。スタッフ一同、お待ちしております。

小金井市子ども
文庫サークル連絡会

【代表者】星川 迪子
【TEL】042-383-0870
【FAX】042-383-0870
【E-mail】amanogawa-michiko-44104@ezweb.ne.jp

小金井市子ども文庫サークル連絡会は、子ども達に本やおはなしの楽しさを伝えたいと活動しています。

1972年に発足し48周年を迎えました。毎年講演会ー子どもの本について（子どもの本の作家、絵本の作家をお招きして）ーたのしいおはなしフェスティバルー大人が楽しむおはなし会。市報にお知らせを出します。ご参加ください。

各文庫、サークルは図書館、児童館でのおはなし会や子ども家庭支援センター等に出向き活動しています。絵本との楽しい出会い、面白いおはなし、怖いおはなし、考えるかがく、工作等楽しんでいきます。

公益社団法人
小金井市シルバー人材センター

【TEL】0422-27-7117
【FAX】0422-27-7476
【E-mail】silver@koganei-sc.or.jp

ホームページ <http://www.koganei-sc.or.jp>

小金井市シルバー人材センターは、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、国、東京都、小金井市からの支援を受けて運営されている「公益社団法人」です。

社会参加の意欲ある健康な60歳以上の高齢者が会員となり、地域社会と連携を保ちながら、希望、知識及び経験に応じた就業並びにボランティア活動等の社会貢献活動を通じて、健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献しています。

当センターの会員数は、約1,100人。事業実績は年間約4億6千万円。市内の企業・市民の皆さんに役に立つべく、様々な分野の仕事を通じて生き甲斐を得ながら地域社会に貢献し、市民の皆さんから信頼をいただいています。

お仕事を依頼したい方、お仕事をやってみたい方は、お気軽にご相談ください。

こがねい女性ネットワーク

【代表者】安藤 能子
【TEL】042-385-3937
【FAX】042-385-3937
【E-mail】08012839480@docomo.ne.jp

ブログ <http://koganeijoseinet.doorblog.jp/>

1996年小金井市の「男女平等都市宣言」と期を同じく発足し、女性の視点から、より良い市民生活を目ざして活動しているグループです。

主な活動は

- ①機関紙「こがねい女性ネットワークニュース」の発行 - 各公民館・市役所広報秘書課前に置いてあります。
- ②小金井市男女平等推進審議会や「こがねいパレット」等市の男女共同参画事業への参加
- ③小金井市男女共同参画室との懇談会の開催
- ④学習会、講演会等の開催
- ⑤『聞き書き集 小金井の女性たち-時代をつなぐ』『聞き書き集 小金井の女性たち-時代を歩む』（図書館本館2階所蔵）をもとに作られたフォトムービー「写真でたどる小金井の女性たち」の紹介上映活動

小金井玉川上水の自然を守る会

【代表者】橋本 承子

【TEL】090-9382-8871（田頭）

【E-mail】kodama2107kodama@yahoo.co.com

ホームページ <https://kodama201803.jimdo.com>

玉川上水名勝小金井（サクラ）復活事業により、ヤマザクラの補植と、桜の生育を阻害する樹木の伐採が行われています。2014年関野橋～梶野橋区間では、ケヤキなどが「雑木」として皆伐されました。

この皆伐後は周辺住民中心に、排ガスや騒音が増え、鳥や小さな生き物たちが減ってきた、など環境の悪化を指摘する声が挙がりました。玉川上水では小金井桜だけでなく、他の樹木や生き物も大切にして欲しいと願い、学習会や観察会、広報などの活動が始まりました。しかし2020年現在、小金井橋～梶野橋区域では桜以外の樹木はほぼ皆伐されています。

玉川上水では、驚くほど多様な動植物の生態が観察できます。この伐採が上水全体の生物多様性を損なわないように願い、伐採が及ぼす影響を知るために、専門家の方々と共に植物観察や、地表の温度測定も行い、倒木調査の結果など通信でお知らせしています。

NPO 法人ファミリーステーション SACHI

【代表者】高橋 雅栄

【TEL】042-316-7861

【FAX】042-316-7861

【E-mail】info@sachimama.jp

ホームページ <http://www.sachimama.jp/>

■以下の三事業部からなる子育て支援団体

1. 集う支援＝【多世代交流・おさんぽカフェ ふらっとマルシェ】

親子で参加できる多世代コミュニケーションの場。資格や趣味・特技を活かした「ブース」を開設でき、そこでのつながりから自己実現ができる。

2. 届ける支援＝【ホームスタート】

先輩ママボランティア（HV）さんによる家庭訪問型子育て支援

ママの気持ちに寄り添い、一緒に家事や育児をしながら（協働）大人の会話を楽しむ（傾聴）

就学前幼児家庭ならどなたでも利用可【HVは守秘義務あり】

3. やってみる＝【講座プロジェクト】

「子育てをしながら私らしく生きる」をキーワードに、仲間とつながりあい 学び合いながら「私らしい生き方」（身の丈起業）と「子育て」の両立を実践します。

子育て支援&多世代交流サロン
「みんなの家」

【代表者】 すぎい あきこ
【TEL】 042-313-9344
【E-mail】 koganei.minna.no.ie@gmail.com

子育て支援と多世代交流を活動目的としてサロン運営しています。

コンセプトは“遠くの親戚より近くの他人”、キャッチフレーズは“大家族になろうよ”です。

多世代で子育てを応援し、お互いに「ここも居場所」と思えるサロンを目指しています。

おもに桜町の「いこいの家」や公民館で、四季を楽しむイベントとカフェを開催しています。

紙芝居や読み聞かせや手遊び歌、パネルシアターやペープサートなど、いつもと違うひと時を演出しています。本年度はコロナ禍のため屋外へと様式を変え、菜園活動も始めました。生ごみ循環系堆肥を利用したエコ畑です。ミミズの力を借りたコンポストで生ごみを集めています。秋はサツマイモ堀りに焼き芋を体験し、ハロウィンイベントではフェースシールドやマウスシールドにペインティングして仮面づくり。お子さんが楽しめる企画です。菜園で収穫したお野菜を、孤食をさける寄り合い食堂「こきんダイナー」でご提供します。ぜひ一度、時間と空間を共有する「みんなの家」へ遊びにいらしてください。日程の詳細はサイト「のびのびーの！」などでご確認下さい。

NPO 法人 木馬の会
小金井おもちゃライブラリー

【代表者】 太田 一貴
【TEL】 042-384-4231（坂口）
【FAX】 042-384-4231
【E-mail】 otoiwase@npo-mokuba.org

ホームページ <http://npo-mokuba.org/>

「NPO法人木馬の会」は障害をもつ人々の自立を支援し地域で共に暮らすために幅広く活動を行っています。

＜小金井おもちゃライブラリー&こども相談室＞では、発達やコミュニケーションに心配、障害のある方にむけた、個別の相談・療育指導、音楽や余暇の活動、コミュニケーション指導のグループ、＜小金井おもちゃライブラリー学童クラブ＞では、特別な支援が必要なお子さんへの放課後等デイサービス事業、＜ライブワークス＞では、障害をもつ方の働く場、就労継続支援B型の活動、＜いきいき木馬＞では、障害をもつ方の福祉サービスの利用や生活全般の困り事の相談支援事業を行っています。

地域の方々や育児サークル等へおもちゃの貸し出しや、遊び場として＜おもちゃ図書館＞も開催しています。武蔵野公園や野川に近い自然の豊かな場所です。ぜひお問い合わせ、お立ち寄りください。

NPO法人らくビット

【代表者】大橋 元明

【TEL】042-407-2440（柴田）

【E-mail】shibata@racoubit.org

ホームページ <https://racoubit.org/>

NPO法人らくビットは、世界中で急速に普及している数千円の超小型・高機能パソコンRaspberry Pi（ラズパイ）と無料のOSとアプリを使い、プログラミング、電子工作、ロボット、AIとラズパイの活用などについて30～80代の男女が集い、学び・教えあう多世代交流の場です。

小学校のプログラミング教育が始まりました。当法人では論理的思考力を養う「算数を学ぶ」プログラミング教室を木、金、土曜日の夕方開催しています。

Covid-19の感染防止のためイベント開催や会合が難しくなり、時間無制限で無料のオンライン会議システム、Jitsi Meetを使ったオンライン交流もしています。ラズパイは面白いですよ！ 一緒に楽しみませんか。

企画政策課男女共同参画室

【TEL】042-387-9853

【FAX】042-387-1224

【E-mail】s010303@koganei-shi.jp

ホームページ <https://www.city.koganei.lg.jp/shisei/danjokyodosankaku/index.html>

小金井市企画政策課男女共同参画室では、①男女平等意識の育成のため、②男女平等社会の実現をめざし行動計画を総合的かつ計画的に推進するため、以下のような事業を行っています。

《男女平等意識の育成》

- 1 こがねいパレットの開催
- 2 男女共同参画情報誌「かたらい」の発行
- 3 男女共同参画シンポジウムの開催
- 4 女性総合相談事業の実施
- 5 再就職支援講座の開催
- 6 男女平等都市宣言普及啓発冊子の発行 など

《行動計画の推進》

- 1 男女平等推進審議会の開催
- 2 男女共同参画行動計画の推進
- 3 苦情処理窓口及び男女平等苦情処理委員の設置 など

第34回こがねいパレット アンケート結果

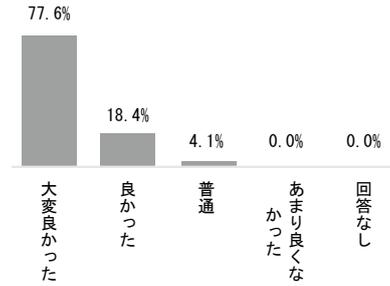
参加者数：計57名（女性40名、男性17名） ※本会場33名、第二会場24名

回答者数：49名 回収率：86%

1 企画の感想

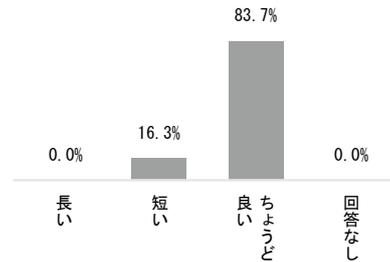
講演について

大変良かった	38	77.6%
良かった	9	18.4%
普通	2	4.1%
あまり良くなかった	0	0.0%
回答なし	0	0.0%
合計	49	



時間について

長い	0	0.0%
短い	8	16.3%
ちょうど良い	41	83.7%
回答なし	0	0.0%
合計	49	



◆講演については、「大変良かった」または「良かった」が96.0%だった。

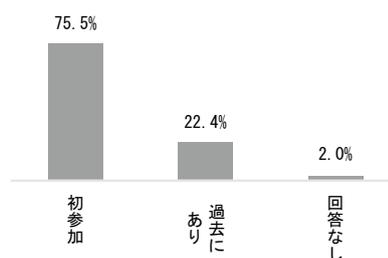
講演時間は1時間30分だったが、「短い」が16.3%と、もっと講師の話を聞きたいと感じた方が例年より多かった。

アンケート結果

2 こがねいパレットについて

こがねいパレットの参加回数

初参加	37	75.5%
過去にあり	11	22.4%
回答なし	1	2.0%
合計	49	

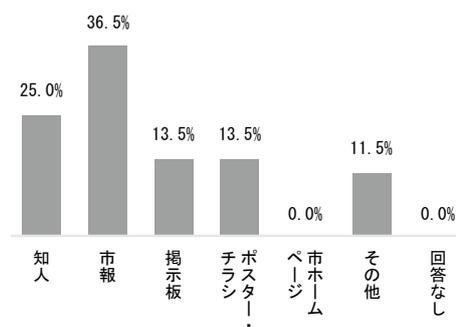


◆今回、初めて「こがねいパレット」に参加した方が75.5%と多く、男女共同参画について啓発を行うことができた。

過去に参加したことがある方の内訳は、2～3回目が8名、5～6回目が2名、10回以上が1名であった。

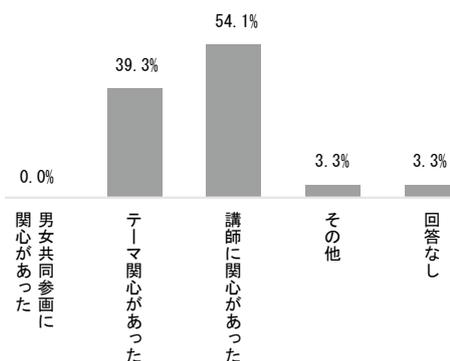
知ったきっかけ（複数回答可）

知人	13	25.0%
市報	19	36.5%
掲示板	7	13.5%
ポスター・チラシ	7	13.5%
市ホームページ	0	0.0%
その他	6	11.5%
回答なし	0	0.0%
合計	52	



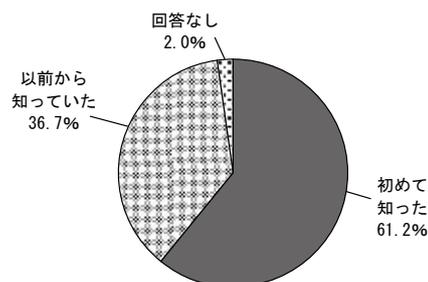
参加したきっかけ（複数回答可）

男女共同参画に関心があった	0	0.0%
テーマ関心があった	24	39.3%
講師に関心があった	33	54.1%
その他	2	3.3%
回答なし	2	3.3%
合計	61	



こがねいパレットは、男女平等・男女共同参画の意識を地域で育てていく行事であると知っていたか

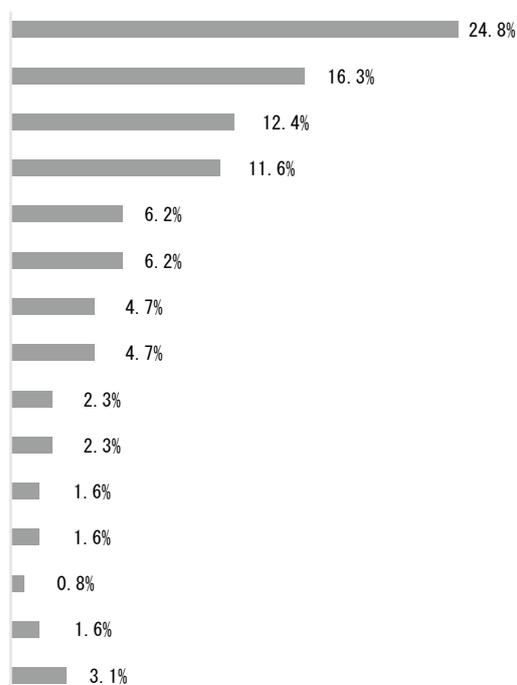
初めて知った	30	61.2%
以前から知っていた	18	36.7%
回答なし	1	2.0%
合計	49	



◆「初めて知った」との回答の割合が61.2%と高く、男女平等意識啓発の一助となった。

男女共同参画で興味あるテーマ（複数回答可）

子育て	32	24.8%
教育	21	16.3%
多様性の尊重	16	12.4%
生き方	15	11.6%
地域活動	8	6.2%
ジェンダー	8	6.2%
働き方	6	4.7%
ワークライフバランス	6	4.7%
暮らし	3	2.3%
人権（DV防止等）	3	2.3%
介護	2	1.6%
防災	2	1.6%
健康	1	0.8%
その他	2	1.6%
回答なし	4	3.1%
合計	129	



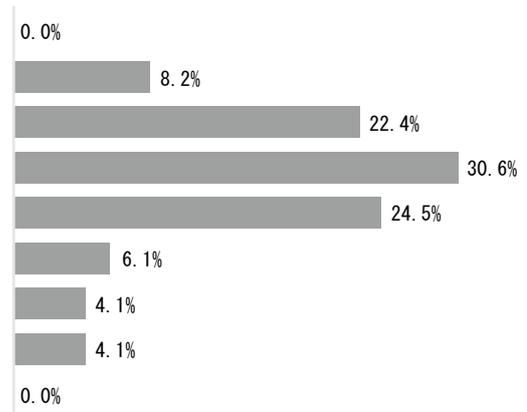
アンケート結果

◆「子育て」と「教育」についての関心が特に高く、講演内容に興味のある参加者が多かったと思われる。

3 参加者について

年齢

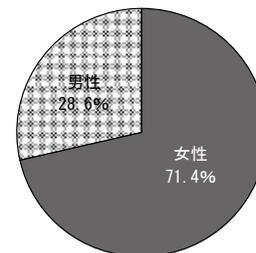
～10代	0	0.0%
20代	4	8.2%
30代	11	22.4%
40代	15	30.6%
50代	12	24.5%
60代	3	6.1%
70代	2	4.1%
80代～	2	4.1%
回答なし	0	0.0%
合計	49	



◆講演テーマから30代～50代の参加者が例年より多かった。

性別

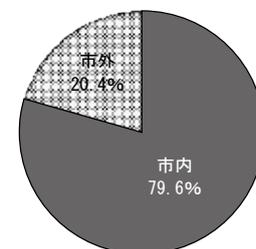
女性	35	71.4%
男性	14	28.6%
そのほか	0	0.0%
回答なし	0	0.0%
合計	49	



◆男性の参加者が3割近く、例年より高い水準であった。

居住地

市内	39	79.6%
市外	10	20.4%
回答なし	0	0.0%
合計	49	



4 ご意見（自由記入）

本会場

- ・これまでの価値観では「〇〇であらねばならない!」「〇〇しなさい」「〇〇であるべきだ」という大人の価値観に育て上げることが子どもの教育だと思われ、行政もその方向性で施行されてきました。これからもそうだろうと思っています。子どもたちと関わっている（ボランティア活動）自分は、大いに改めねばと思いました。出来る、出来ないという結果を追求するのではなく、やり遂げるまでのプロセスを大事にしていきたいと気付きました。井本先生ありがとうございました。
- ・情報社会の中、つつい子どもを自分の価値でおしつけてしまいがちな毎日ですが、今日のお話をうかがって子どもをありのままの姿でみて、それを受けとめることがとても大切なのだなと思い勉強になりました。
- ・すごく楽しく、ワクワクした気持ちのまま帰れます。自分もキラキラが足りない原因を捜してみます（失敗したくない症を反省しました。）。
- ・「ダメでいい、ダメがいい。」のタイトルから思っていたことと違っていましたが、ダメの基準を何をダメと思うかの考え方が違っていたことに気がつきました。「ジャッジをしない」どこかで認められたいと思い続けてきたのかなあと振り返りました。
- ・“ありのままを認めれば子どもたちは最高に輝く” →なかなか難しいですね。
印象に残ったことはジャッジしないこと。今の学校（特に公立）で、井本先生のような授業ができるか？疑問です。ゆとりがなさすぎですから。だから、学校が居場所として安心できる、わかって楽しい場になってほしい。そのために、大人が変わる。大人が何をしたらいいのでしょうか？ありがとうございました。
- ・中学生と小学生の子どもがいます。その子の魅力を沢山見つけてやるぞ！と思いました。
自然に触れさせ、いっぱい外遊びさせてやりたいと思いました。安心できる場、作ってあげたい。探してあげたい。
- ・大変面白いお話でした。自分自身、人や子どもをジャッジしている部分が多々あることに気がつきました。今後ともぜひご活躍ください。
- ・子どもたちの個性を尊重したいと思いつつ、自分の価値基準を知らず知らずのうちに子どもたちに押し付けているということに直面しました。ありのままの子どもたちを受け入れられる自分になれるか、自問自答していきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ありのままに認められる社会の創出がなにより重要だと思った。ダメなまま生きられたらどれだけ良いか。

- ・井本先生のような方が、学校の先生として当たり前になり教師の多数派になる日が来ると良いですね。「自分がやりたいことをやるのはやめた」のくだりは深いものを感じました。謝々
- ・子育て中なので、「子どもをありのままに認める」という意味をいろいろ考えるよい機会となりました。どの程度できるか？先生の動画・写真の中の子ども達が楽しくて、おもしろくて、とてもよかったです。
- ・子育て中で、井本先生の子どもとも縁で出会っているという言葉に、とてもうれしく思いました。
- ・井本先生のおっしゃっていることは、わかっているし理解している、なのに我が子と向かい合う時、ついジャッジしてしまう。そんな自分に改めて、気づき、考えさせられるお話しでした。お話を聞いてよかったです。ありがとうございました！
- ・ご講演ありがとうございました。療育訓練に行きながら幼稚園に通う子どもがいます。不安な点がたくさんあり、出来ないことばかり見えて叱ってしまうことがとても多く、毎日反省ばかりでした。講演を聞いて、子どものいいところがたくさん見えるような気がしました。私が変わるべきだと心から思いました。ありのままを認める、その子のもってるものをおもしろがる、ということ意識して子育てをしていこうと思います。
- ・息子はかんしゃくが多いですが、外では声をかけられたり、知らない人にお菓子やおこづかいをもらうことが多く、私自身、息子のいいところ、見つけられてなかったな、まわりからはとてもおもしろい、いい子に見えるんだろうなと思うことが多かったです。講演ありがとうございました。
- ・保育士なので参加しました。ありのままを認めることは難しいことですが、先生の話が聞いて前向きになりました。自分自身にもそうしていきたいです。
- ・企画してくれた皆様、先生、とても良い時間をありがとうございました。最近のコロナでzoomなどの講演は聞いたりしていたが、生で聞くことで、心にずっと残りました。キラキラを探そう!!
- ・どのような視点で子どもを見ていったら良いかの大きなヒントをいただけてとても良かったです。
- ・子どもと出会うことは“縁”という言葉聞き、私も息子と出会えたことは、素晴らしいことなのだと思いました。でもすごくかわいいと思う反面、やはり、できること、できないことに目がいつてしまっています。それは、自分の中にジャッジする目があるからなんだと、今日のお話を聞いて感じます。自分のままでいる、ありのままを認めるということは、今の自分には難しそうですが、でも、私自身が変わっていこうと思います。「ダメでいい、ダメがいい」自分の子にも、いろんな子にもそれを伝えたいです。本日は、本当にありがとうございました。運営のみなさまもありがとうございました。

- ・貴重なお話しありがとうございました。社会が大きく変化する中で、従来の生産性を上げるための人作りから、一人ひとりのあるがままを認め、解き放たれて幸せを追求する教育のあり方は、社会の様々な問題を解決することに繋がるのではないかと思います。
- ・軽快な口調に引き込まれる講演会でした。自分も保育士として働く中、大事な子どもと接する機会が多く1日の多くの時間を保育園で過ごしている事に責務も感じてます。井本先生のお話で自分も面白い、キラキラする事が大事な事だと知り、これからも、自分も楽しみながら、働いていこうと思います。ありがとうございました。
- ・マイクの音が小さくて聞きづらかったです。内容はすばらしいものでした。
- ・男女共同参画という言葉が古いしちゃんと意図を表現しきれてない、インクルーシブ事業とかにした方が・・・内容が多様すぎて、ぼやけそう。
- ・もっとお聞きしたいと思うほど時間があっという間でした。正に思春期の子育て中で目からうろこでした。先生のお母さまが、一度も怒らなかつたとお聞きして、私は、息子に小言を言っちゃってるなど反省しました。
- ・ < good >
「こどもを見る大人の心を変える」 = とても大切、同感！
テーマ&ポスターデザイン
< 残念 >
男女参画との接点のつながりを記して欲しかった
ex. 男（女）でいい 男（女）がいい⇒LGBTでいい
- ・お話を伺えてすごく良かったです。ずっと評価される中で育ち、母となり、その子自身を「受け入れる、かわいい」と思う心と、一方で心配心もあり、「～すべき」という目で見てしまう自分があります。先生のお話などで心新たにするをくり返しておりますが今日また一新成長できたと感じます。

第二会場

- ・ありがとうございました。講師の方もマスクをされているためどうしても音声聞き取りにくいとは思いました。
第二会場を設けるのであれば、zoomなど自宅で視聴できれば、音声も自分で調整できたりして多少聞きやすいかなと思いましたが、テーマからしても子育て中の方ももっと気軽に参加できるようにと思いました。
- ・第二会場を用意していただきありがとうございました。そこそこ聞き取れました。
- ・第二会場でしたが、音声は少々聞き取りにくかったです。このような機会を作って頂きありがとうございました。心にとまる言葉がたくさんありました。もう一度、ゆっくり考えてみたいと思います。詳しく教えていただきありがとうございました。たくさん事を学びました。
- ・若干音声が聞き取りにくかった。第二会場を設置していただけてとても有難かった。聞く機会を持てて良かった。
- ・井本先生は以前よりファンでしたので、この講座に参加させていただきました。先生のお話はひとつひとつ本質的で、とてもおもしろく、感動しました。先生のお話を聞いて、子どものありのままを大切にしていきたい、好きなように伸びていけるよう邪魔をしないようにしていきたいと思いました。家庭で安心感を持って過ごしていけるようにしたいなと思いましたが、今日はありがとうございました！
- ・井本先生以外の音声（マイク）が何言ってるか、音量と質が悪くて聞こえなかった。会場でちゃんと聞きたかった。聞こえづらく、内容のどのくらいを聞くことができたのか…残念です。換気のため窓も開いていたため外の車の音、人の声もかなり聞こえ、聞きづらかったです。ご配慮ありがとうございました。
- ・第二会場の音声（音量、音質とも）が聞き取り辛く、集中が難しかったです。
- ・あらためて自分たちが大切にしていることが何か、見直す時間になりました。
- ・①講師に迎えられにくい多忙な井本先生から、よくぞ小金井でお話を伺えて幸運です。
②実行委員が「ダメでいい、ダメがいい」というタイトルを作り、サブタイトルに希望をいだかせて頂きました。
③ちらしを作成なさった実行委員のお力に、大変に感動しました。こんなに目にとびこむチラシの力と技を、市民に教えてほしいと思います。"

さまざまなご意見をいただきましてありがとうございました。

実行委員の感想、実行委員会の開催記録

<実行委員長 山本 紘衣>

「子どもたちは自分でやり方を考えて自由に取り組んでいる時、生き生きしている」という井本先生の話はそのまま私に当てはまりました。

経営コンサルタントの型にハマった経営の仕方を取り入れるのは私にはしっくりきませんでした。その代わりに、コンサルにお願いして上手くいっている人を真似ていいところ取りする。それは試行錯誤するけど、自分の味方になってあげる気持ちで自己対話していくと自分が持っているルールに気付いていく。はっきりいって不安だけど、そこにオリジナルがある。そして生き生き輝くと思います。

コロナ禍という初めての事態での活動でした。一緒に動いて頂いた職員の方々、委員の方々、ありがとうございました。

<副実行委員長 杉井 亜紀子>

青少年期を海外で過ごした息子達。インターナショナルスクールに通わせつつ、風変わりな日本人にならぬようにと、日本人としてのアイデンティティーを育むのに努めたっけ。島国日本は手足が伸ばせぬ窮屈さを感じながらも、自立した息子らは日本企業の海外畑で働いている。彼らの友人の中には幼少期には想像できなかったような花を咲かせた子もいる。親は我が子が一角の人物になるのを望むもの。時に期待は子供にとって重荷になってしまうことも。どんな駒が飛び出すか、俯瞰の目で見ると子育て。あの頃、なるようになるさ、ともって肩の力を抜いていたら、また違う色の花を咲かせていたのかも。子育てを終了した私にとって、振り返る機会となりました。コロナ禍の今、心が折れない子育てを！

<実行委員 金ヶ江 博紀>

令和2年は、世の中の的にも、個人的にも特別な一年でした。その中で（コロナ禍で）34回目となるこがねいパレットの一実行委員として活動できたことに満足しております。誰もが発言できる実行委員会の雰囲気は、非常に良かったです。実行委員の皆さま、事務局の職員の方々には大変感謝しております。お疲れさまでした。有難うございました。

<実行委員 川原 美紀>

こがねいパレット6年目、今回はコロナ禍でも無事に開催が出来て良かったです。

「ダメでいい、ダメがいい。ありのままを認めれば子どもたちは最高に輝く」を実際の映像で見せて貰え本当に子供達が生き生きとしていて素敵でした。

大人だって同じ、ありのままを認めて、受け入れて貰える温かな世界がより広がると良いですね。

今回初めて別室配信が出来て良かったと思いましたが、やはりより多くの方に参加頂けるように今後はオンライン開催を導入するなど、開催の方法についても多様に検討していかなければと痛感しました。

今年も一緒に活動して頂いた、職員、委員の皆様どうも有り難う御座居ました。

<実行委員 齋藤 瞳>

自分を表現する時に、決められたルールの中で行う場合と、自分でイチから考えて自由に行う場合と、あなたならどちらを選びますか？

大半は管理された方が安心と言うかもしれませんが、色んなお考えがあると思いますが、井本先生は後者です。

「ありのまま」という表現は、自分らしく生きること、すなわち本来の自分に還っていくこと、自分も知らなかった自分に会うことなのだと思います。

あなたは、「本当の自分」に出会えていますか？「ありのまま」生きると決めることからスタートです。

このイベントに関わってくださった全ての方へ、そしてマスクをしての講演で酸欠になりそうな中、一生懸命話してくださった井本先生の深い愛情へ、心から感謝申し上げます。

<実行委員 芝山 未佳>

コロナウイルスの影響で、不安定な状況でしたが、会議やイベントの活動の場を用意していただけたことに感謝します。ポスター制作や当日の看板を担当させて頂き、微力ながらお役に立てていれば幸いです。例年とは異なり事前予約制とし、初めての同時放映も行われましたが、このイベントに携わった皆さんの協力が成功に繋がったと思います。

<実行委員 塚田 悟>

今回のこがねいパレットは新型コロナウイルスの流行もあり、当初の打ち合わせから実施できるのかとの思いの中でのスタートとなりました。講師の選定やテーマを決めるにあたり、感染リスクを抑えるため短時間で決めていく必要がありましたが、事務局や実行委員の方々の協力のもとで実施することができました。講演会には多数の参加希望があり、今回の講演会の関心の高さを知るとともに、お話の内容も「ありのままを認める」ことが子供にとって非常に大切であることを話され、良い話であったと思います。

<実行委員 矢部 響子>

今年のパレットは、打合せなどの集まりも最低限に抑え、開催当日まで緊張感をもって挑みました。

このコロナ禍で、開催が難しいのではないかと制限が多い中、どのように募集をかけるか？感染症対策はどのようにするか？など、不安要素がたくさんありましたが、職員、実行委員が共に一丸となり、会場をつくれたことに心より感謝です。

井本先生の人柄が会場を温かくしてくれて、生徒の普段の映像に笑いもあり、涙する場面もありました。一人一人に敬意と愛を持って接する姿を見て、子育て中の私にも、母として妻としてのヒントをいただきました。

打合せ時や当日も託児付きで、子育て中の女性の社会参加をも応援してくれる男女共同参画こがねいパレットは、小金井市で誇れる素晴らしい取り組みだと思います☆

<実行委員会の開催記録>

- 第1回 令和2年 6月26日
- 第2回 令和2年 7月 6日 ※中止
- 第3回 令和2年 7月14日
- 第4回 令和2年10月13日



こがねいパレット実行委員会の様子



講師と第34回こがねいパレット実行委員

第34回こがねいパレットを振り返って

企画財政部企画政策課男女共同参画室

「こがねいパレット」は、小金井市における男女平等意識啓発の事業として、市民実行委員の皆さんと企画、運営等を行い、今回で34回目の開催となりました。

今年度は教育界でご活躍されている井本陽久先生に「ダメでいい、ダメがいい。一ありのままを認めれば子どもたちは最高に輝くー」をテーマにご講演いただきました。井本先生には、子どもを大人の目線でジャッジすることなく、子どものありのままを認めることの大切さについて、映像を交えながらお話しいただきました。今回の井本先生の講演を通して、子どもや家族にとって大切なものとは何か、子どもだけではなく大人も居場所や心の拠りどころの大切さについて考えるきっかけになればと存じます。

今回の「第34回こがねいパレット」を開催するにあたり、新型コロナウイルス感染症拡大や緊急事態宣言が発令されるなど、「こがねいパレット」の開催も危ぶまれる状況でした。そして、実行委員会の開催時期を遅らせるなど、いつもとは異なる状況でのスタートとなりましたが、8名の実行委員の皆さんと約半年間にわたり何度も話し合い、やり取りを重ねてまいりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場の定員が通常の半数以下となったことから、より多くの方に参加いただくため、「こがねいパレット」では初めて第二会場を設け、様々な協力や試行錯誤を繰り返しながら、講演の様子をインターネット回線を使い映像と音声をお届けすることができました。参加者の皆様には、新型コロナウイルス感染防止対策にご理解とご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

また、「第34回こがねいパレット」にご賛同いただきました13団体の皆様には、会場内でのソーシャルディスタンス確保のため、例年行っておりました団体展示を中止し、参加者へ団体紹介文を配布させていただきました。

このたび、「第34回こがねいパレット」に関わっていただきましたたくさんの方々に改めてお礼を申し上げますとともに、今後とも引き続き小金井市の男女共同参画推進に向けた取組のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

「こがねいパレット」開催の足跡

※第14回までは「こがねい女性フォーラム」として開催

回・開催日	テーマ・内容
第1回 1987年 12月5日(土)	女性と福祉 シンポジウム コンサート／はしだのりひこ 展示／婦人団体・グループ作品、老人等の介護器具 こども分科会
第2回 1988年 11月12日(土) 13日(日)	女と男でつくる地域のネットワーク 分科会／「老後の問題」「子育ての問題」「働く女性の問題」「こども分科会」 講演／斉藤茂男「これからの家庭と女性の生き方」 コンサートの横井久美子 展示／婦人団体・グループ作品、老人介護器具・用品
第3回 1989年 パートⅠ 7月8日(土) パートⅡ 9月16日(土) パートⅢ 11月26日(日)	こんな生き方してみたい 映画／「TOMORROW 明日」 コンサートの読売交響楽団 絵画展／淀井彩子 写真展／渡辺幸子 講演／ヤンソン・由美子「女にも男にも住みよい社会とは」 分科会／「高齢者」「子育て」「働く女性」 展示／婦人団体・グループ、老人等の介護器具・用品
第4回 1990年 パートⅠ 4月21日(土) パートⅡ 9月8日(土) 9月9日(日)	愛を生きる 女性議員に聴く／「議員として今、感じていること」 映画／「黒い雨」 小金井市婦人行動計画推進状況報告会 交流会 分科会／「家族」「地域」「自然」 シンポジウム／吉武輝子「愛を生きる」 展示／婦人団体・グループ、応募作品「愛を生きる」、老人等の介護器具用品
第5回 1991年 パートⅠ 4月13日(土) パートⅡ 11月17日(日)	仕事も家庭も楽しみたい 講演／来栖琴子 コンサートの読売交響楽団 講演／宝井琴桜「残ったのこった夢話」 シンポジウムの中島通子 分科会／「出生率1.21%」「女性の就業率56.9%」「高齢化率10.5%」 展示／等身大女性の人体模型
第6回 1992年 パートⅠ 4月25日(土) パートⅡ 11月1日(日)	わたして地球人—もっと知りたい世界のくらし— コンサートの日本のうたと民族音楽 エスニック・ティーパーティー 映画／「サンダカン八番娼館 望郷」 シンポジウムの福島瑞穂「アジアの女性と人権」
第7回 1993年 パートⅠ 4月25日(日) パートⅡ 10月1日(金)～3日(日) 10月3日(日) 10月9日(土)～17日(日) 10月16日(土)	男と女でつくる地域のネットワーク 福祉バラエイトーク／高瀬毅 ペーパーサートの「2001年 小金井さん一家の憂うつ」 分科会／「老いを支える手が女性専科にならないために」「住宅から見る住宅ケア」 「性の話をしてみませんか」 多摩をひらこう、女性の力で(中央線沿線8市合同女性フォーラム統一テーマ) 作品展／絵画、写真 トーク／南伸坊「女性と芸術」 交流会 美術展／「多摩・女性美術—いのち・色・かたち—」 美術講話／田中田鶴子「画家から見たヨーロッパ文化の源流」
第8回 1994年 パートⅠ 11月6日(日) パートⅡ 1月28日(土)	家族ってなあに? 女性にとっての先進国ってなあに? コント／「家族アラカルト」—で、あなたの場合は?— トーク／沖藤典子「女性の老後と家族」 深江 誠子「ひとりでも家族・いろんな家族」 講演／北沢洋子「アジアの女性と日本」 報告／女性海外派遣事業 パネルディスカッション
第9回 1995年 11月12日(日)	女が変わり、男が変わる—それぞれのライフステージから— コント／ステージⅠ宮迫千鶴「つくられる『女の子らしく』『男の子なのに』」 ステージⅡ青山南「共に育つとき」 ステージⅢ吉武輝子「魅力のあるシニア世代へ」

回・開催日	テーマ・内容
第10回 1996年 11月10日(日)	男女平等宣言！？ 1部「サークル・団体等の発表・展示」「ミニコンサート」「男女平等都市宣言(案)の発表」 2部 分科会／Ⅰ.吉田 英子「みえていますか？教室の中」 Ⅱ.中島 通子「結婚が変わり、離婚も変わるそして、相続も…」 Ⅲ.吉田 清彦「CMウォッチングメディアに見る女と男」
第11回 1997年 11月9日(日)	男女平等都市宣言—絵にかいたモチにさせるな— 講演／吉永みち子「自己実現時代の女・男」 女性議員に聞く みんなでトーク&トーク
第12回 1998年 11月8日(日)	わたしのまちで第一歩 講演／残間里江子「わたしのまちで第一歩」 分科会／「男の分科会—あなたの居場所は??—」 「アッ!とおどろく年金のしくみ」「不平等とは感じませんか」
第13回 1999年 11月7日(日)	ジェンダー落語がやってくる—とにかく笑って大発見— 落語／桂 文也 ジェンダートーク／桂 文也 ジェンダー川柳・ジェンダーこぼなしの発表 展示／地域グループ
第14回 2000年 12月3日(日)	ドラキュラとラバンがくる日—子どもといっしょにジェンダーさがし— 人形劇／あとりえ MOON 絵本の読みきかせ／はちのへウィメンズアクション
第15回 2001年 12月2日(日)	家族の悩み解決講座—支えあって生きる— 講座／鹿島 敬 展示／地域グループ
第16回 2002年 11月16日(土)	知っていますか？ 男の子のキ・モ・チ 気づいていますか？つくられた「男らしさ」 男はつらいよ体験談 プレイバックシアター／北村 年子 JICAPTグループ 報告／初デートアンケート 展示／地域グループ
第17回 2003年 12月7日(日)	婚なコン あんな婚 インタビュー／婚・こん・コン・KON グループトーク／いろいろ婚 展示／地域グループ
第18回 2005年 1月16日(日)	あなたが裁判員になる日 ～ドメスティック・バイオレンス殺人未遂事件～公会堂が一日法廷に変身… 「裁判員制度」って知っていますか？「裁判員」ってどんな役目？ 模擬裁判劇→評議(裁判員役市民6名)→判決(参加者全員)で体験。
第19回 2005年 12月4日(日)	パレットパーク ～いろいろな人が いろんな色のまま～ 大人も子どもも一緒に楽しく遊びながら男女共同参画について考えてもらおうと、市内の様々な団体に協力してもらい、初の来場者体験型のパレットを企画 映画「ベアテの贈り物」上映、絵本のよみきかせ、工作コーナー、点訳体験、パフォーマンス、スタンプラリー(男女共同参画に関する問題を出題) 展示／絵手紙、市内協力団体
第20回 2006年 11月19日(日)	ウチの愚妻が… どう感じますか？ このコトバ ・緊急討論!「言葉にかくれたジェンダー」 ・落語&トーク「女流真打 古今亭菊千代のみる落語の世界の男と女」 ・手に食を「男だらけの料理教室」 ・カントリーコンサート ・市内協力団体の展示 ・チャリティーバザー ・点字体験等
第21回 2007年 11月4日(日)	ひとり ひとりが 大切 女性と障害のある方の自立、人権について取り組み ・実行委員会からのメッセージ ・映画「筆子・その愛—天使のピアノ—」上映 ・バザー ・展示／滝乃川学園資料パネル ・市民活動団体による展示と説明
第22回 2008年 12月13日(土)	団塊の世代 いざ地域デビュー! ～セカンドステージはどんな色?～ 講演／林 望 「団体世代への応援歌」 トーク／川合 彰、長森 眞、林 望 「トーク The セカンドステージ」 ～市内で活動する方の「My 地域デビュー」を聞く～ リレーアピール／地域デビューサポーターズ 展示&交流／地域デビューサポーターズ、こがねいパレットに賛同する団体

回・開催日	テーマ・内容
第23回 2009年 11月15日(日)	伝えよう 受けとめよう 心のことば 講演/山根 基世 「もう一度考えたい ことばの力」 即興劇(プレイバックシアター)/出演「にじのわ」 ～あなたのことばを形にする あなたの思いを再現する みんなと創る即興劇～ 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第24回 2010年 12月5日(日)	パパの子育て よーいドン! ～家族もパパもハッピーに～ 講演/小崎 恭弘 「みんなで子育てを楽しめる社会をめざして」 しゃべり場/アドバイザー 小崎 恭弘 パネリスト 子育て中のパパ、ママ、孫育て中のおじいちゃん 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第25回 2011年 11月26日(土)	夫婦を楽しむ イマドキの結婚&夫婦実態報告 小金井のご夫婦いらっしゃ～! パートナーはどこまで知ってる? ゲーム トークセッション「夫婦を楽しむためのアレコレ」 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第26回 2012年 11月18日(日)	ステキな女性・ステキな男性 ～気持ちも体も美しく、オシャレに生きる～ 講演/1部 池上 陽子 「亭主改造計画」 2部 山田接骨院スタッフ 「しなやかな ^{カラダ} 身体にリフレッシュ!」 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第27回 2013年 11月10日(日)	ビューティフルママの時間割 ～子育てと仕事をおいしくMix～ 講演/「こどもはみんなアーティスト! 育児をしながら夢をつくる～映像作家の日常と奮闘」 ワークショップ/「ハンドタオルで動物園をつくろう!」 ※講師 若見 ありさ(講演・ワークショップ) 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第28回 2014年 11月16日(日)	ゆる家事って、なあに? ～今の暮らしに魔法をかけよう～ 講演1部/「暮らしを変えよう!ゆる家事レッスン」 講演2部/「野菜を食べよう!ゆるベジ料理」 ※講師 浅倉 ユキ 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第29回 2015年 11月8日(日)	ストレスに対処するしなやかなココロの作り方 講演前半/「ストレスに対処するしなやかなココロの作り方 講義」 講演後半/「ストレスに対処するしなやかなココロの作り方 実践」 ※講師 石井 朝子 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第30回 2016年 11月12日(土)	幸せを呼ぶ10秒そうじ ～掃除をしたくなるお話を聞きにきませんか?～ 講演/幸せを呼ぶ10秒そうじ ～掃除をしたくなるお話を聞きにきませんか?～ ワーク/ブロックワーク等 ※講師 白坂 裕子 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第31回 2017年 11月23日(木・祝)	地球を歩いて感じた家族のカタチ グレートジャーニー探検家が考えるいきいきとした暮らしとは? 講演/関野 吉晴 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第32回 2018年 11月11日(日)	フィンランド流 自分らしく生きるヒント ～暮らし方、働き方、子育て～ 前半/講演 後半/質疑応答(質問カードとホワイトボードを使った参加型) ※講師 坂根 シルック 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第33回 2019年 11月24日(日)	It's 笑 タイム!! 笑いで吹き飛ばせ 暮らしのモヤモヤ 漫才/林家まる子、林家カレー子、こっちゃん 展示/こがねいパレットに賛同する団体
第34回 2020年 11月8日(日)	ダメでいい、ダメがいい。ーありのままを認めれば子どもたちは最高に輝くー 講演/井本 陽久 こがねいパレットに賛同する団体の紹介文配布

第34回こがねいパレット

実行委員会（五十音順）

金ヶ江 博紀 川原 美紀 齋藤 瞳 芝山 未佳
○杉井 亜紀子 塚田 悟 矢部 響子 ◎山本 紘衣
(◎委員長 ○副委員長)

参加団体（五十音順）

保育サポーターグループ「アンファン」 聞いてきいての会
小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会 NPO法人 こがねい子ども遊パーク
小金井市子ども家庭支援センターゆりかご 小金井市子ども文庫サークル連絡会
公益社団法人 小金井市シルバー人材センター こがねい女性ネットワーク
小金井玉川上水の自然を守る会 NPO法人 ファミリーステーション・SACHI
子育て支援&多世代交流サロン「みんなの家」 NPO法人 木馬の会 小金井おもちゃライブラリー
NPO法人 らくビット

保 育 小俣 杉田 関川 高橋

ポスター・記録集表紙デザイン 芝山 未佳

※古紙を配合しています。

平成8年12月3日
告示第99号

男女平等都市宣言

私たちは、誰もが人間として尊ばれ、また、自らの個性にあった生き方を自由に選択できる社会を願っています。

そのため、個人の尊厳と両性の平等を基本理念として社会的、文化的、歴史的な性差を排し、職場、家庭、学校、地域などすべての領域での真の平等をめざして、ここに「男女平等都市」を宣言します。

- 1 私たちは、人権を尊重し、互いの性を認め支えあい、いきいきと充実した人生がおくれる男女平等の「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、一人ひとりが共に個性や能力を発揮し、社会のあらゆる分野に男女が共同参画できる「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、男女が共にかけがえのない地球の環境を守り、平和と平等の輪を世界へ広げる「小金井市」をめざします。

第34回こがねいパレット記録集

令和3年（2021年）3月

発行 小金井市
編集 第34回こがねいパレット実行委員会
企画財政部企画政策課男女共同参画室
〒184-8504 小金井市本町6丁目6番3号
電話 042（387）9853